

出会い系授業 かなちゃんとボクラ

第 67 回 2011 年 07 月 01 日

社会学専攻 4 年次 小林 龍之介（加納ゼミ）

僕は、鬼のような「高校野球」の 3 年間を経て、大好きな野球を続けるために関大に進学した。毎日野球に明け暮れる僕は、案の定、学部の授業やクラスでは練習ばかりでクラスメートと付き合える時間も限られ、なかなか体育会系以外の友人を作ることができずにいた。3 年次からの専門ゼミで少し友人の輪も広がりバリアフリー展のフィールドワークなど専門研究にも関心が出てきて少しは学生生活らしくなってきたが、それでも、すべてが野球中心に回っていた。スポーツを通しての地域活性や地域活動としての少年野球や指導者論など、結局、僕には野球しか頭にないのである。

さて、そんな野球狂の僕が、この春ちょっといい出会いをした。

「社会福祉概論」でのことだ。北村佳那子さん(以下、かなちゃん)は、聴講生の 4 年目とかで、僕と同学年、医学的には「最重度の障害」らしく、幼い頃に何度も生死をさまよい、医者の見立てでは「何もわからないだろう、考えることもできないだろう」という。確かに、車いすにちょこんと座っている彼女はとても小さく色白で華奢、大切にしないと壊れそうなお人形のような感じがした。まさか、そんなかなちゃんと僕がおしゃべりをするようになるとは夢にも思わなかった。出会いを作ってくれたのは、ガイドヘルパーの山崎さんで社会学部の OG で体育会ラグビー部のマネージャーをされていたことから、体育会系の僕たち野球部員に声をかけてくれたのだ。



僕は、これまで野球漬けの人生で、元気な奴ばかりに囲まれてきたので、初めは戸惑った。自分の話していることが本当に通じているのか不安だったが、回を重ねて接していくうちに、かなちゃんは僕のことをちゃんと覚えてくれ、話しかけると、いつも精いっぱい表情やうなずきで応えてくれる。僕は、言葉にはならないけれどしっかりと意思で話してくれていると確信できた。こうして毎週、授業が終わると一時間ほどみんなでおしゃべりをして、その輪も広がっていった。

ゴールデンウィークには、僕たちの試合(関関戦)を甲子園まで応援に来てくれ、本当に嬉しかった。後輩が駅まで迎えに行き、球場では特設の車いす席を確保して熱い応援を送ってくれた。試合は、残念ながら負けてしまったが、かなちゃんの応援は、僕らをととも勇気づけてくれた。負けてごめんな。

先日の授業は、かなちゃんがゲストスピーカーを務める「かなこアワー」だったが、野球部の後輩たちが、インタビューをしたところ、「かなこ語」で一杯みんなに語ってくれ、受講生のみんなもすごく温かく見守ってくれていた。

不思議な縁だが、どうやら野球部はかなちゃんとの出会いから、たくさんの力をもらっているようだ。なぜか、かなちゃんの周りには、いつも自然な笑顔が溢れていて、周りを幸せな気分にする。そして、どんなことにも逃げずに立ち向かい、一生懸命に頑張っているかなちゃんの行動力、笑顔に励まされる。出会い系授業に感謝したい。

